

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1962
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.55, No.9 (1962. 9)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19620901--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田學會雜誌

1962年 9月号

論 説

- 財政学の基本的課題に関する疑問と解釈……………高木 寿一 1
 ——財政学の前進拠点の再検討——
 日本の法人税負担とその転嫁……………古田 精司 29

資 料

- 十六・七世紀フランス農業史研究の問題点若干……………渡辺 國廣 48
 一八九五～九九年の国際情勢に対する
 ドイツ社会民主党の認識……………正田庄次郎 60

書 評

- 中村吉治・島田隆著『解体期封建農村の研究』……………速水 融 73
 矢木明夫・村長利根

新刊紹介

55 卷 **9** 号

昭和37年9月1日発行
昭和37年8月13日印刷
第三種郵便物認可
（毎月1日発行）
九〇三号

昭和37年8月13日印刷
昭和37年9月1日発行
第三種郵便物認可
（毎月1日発行）
九〇三号

三田学会雑誌

昭和三十七年八月号

定価 金二二〇円（送料別）

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 55, No. 8

August, 1962

CONTENTS

A Critical Note on Mr. Kaldor's Growth Model	page
……………M. Fukuoka	1
An Origin of Dynamization in Economics	T. Matsuura 15
——Pantaleoni's dynamics and its influence——	
Moses Hess and the French Socialism	H. Noji 35
Economic Stability and Income Distribution	N. Maruo 49
Book Reviews	
Feargus O'Conner, Irishman and Chartist,	
by Donald Read and Eric Glasgow	K. Iida 66

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
 (The Keio Economic Society)
 Editorial communications to be sent to
 the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai
 Keio University,
 Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
 Price 120 yen

新刊紹介

広田司朗著『ドイツ社会民主党と財政政策』	大島通義	78
近藤康男編『北洋漁業の経済構造』	高山隆三	79
L・ヨハンセン著『経済成長の多部門分析』 西川俊作訳	浜田文雅	80
木村保重著『貿易と分配』	深海博明	80
江沢譲爾著『産業立地論と地域分析』	高橋潤二郎	82

財政学の基本的課題に関する疑問と解釈

——財政学の前進拠点の再検討——

高木寿一

一、はしがき

いま財政学の課題の一つは、財政学の前進拠点を再吟味することであると思う。ここに提示する疑問の多くは、ことに高度の研究段階に前進している人々にとっては、余りにも初歩的であると思うであろう。しかし私は、初歩的であると思われることの中に、基本的な課題が潜在していることがあると思う。高い研究段階に進みつつある研究者が、その出発点において、自明なこと又は negligible であると考えて、充分に検討せずに前進してしまつて、研究が前進するにつれて、次第にその結果（あるいは欠陥）が大きく現われてくることも、あり得ることである。私がここに提示する疑問と解釈が、あまりに初歩的であると思うことがあつても、それは財政学の前進拠点を再検討していることと理解されたい。なお他の機会に発表したことがある課題も含まれているが、いずれも改めて若干の説明を加えてある。